

桜門体育学会事務局

101-8375 千代田区三崎町 2-3-1 日本大学法学部 総合教育科目・体育実技 佐藤研究室

Tel & Fax : 03-5275-8600 E-mail : omonjim@nu-taiiku.jp

学会 HP <http://www.nu-taiiku.jp/society/>

桜門体育学会会長ご挨拶

会長 大橋二郎

今年度(平成 28 年)より、桜門体育学会の会長を拝命いたしました大東文化大学の橋大郎でございます。本学会はほぼ 50 年にわたり体育学科同窓会とともに体育学・スポーツ科学分野で多くの教育者・研究者を輩出してきました。そのような中で 2009 年に会員制度、役員および委員会制等の変改があり、2010 年より新たな会則のもと会長の吉本俊明先生以下主に日大各学部の体育関係の教員から選出された役員の方のご尽力により、2 期 6 年が経過したところであります。

本学会のような歴史のある組織の改編には様々な課題に直面することは容易に想像できません。幸い桜門体育学会のホームページには、諸規定とともに学会の歴史、学会改組の趣旨等が掲載されております。これまで本学会を導いてこられた先輩の先生方の意志を継承しつつ、役員ならびに会員の皆様とともに、体育学・スポーツ科学分野の教育・研究に力強く貢献できるよう桜門体育学会のさらなる発展に向けて努めていく所存でございます。

年度会費納入のお願い

庶務・会計委員会 佐藤秀明

平成 28 年度から役員の方の顔ぶれも変わり、新たな体制で桜門体育学会の 7 年目が始まりました。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、アスリートたちの活躍への期待は日を追うごとに大きくなっています。それを支える体育学やスポーツ科学の発展は不可欠なものです。本学会の発展は、体育・スポーツの発展に繋がっています。それは皆様の積極的な参加なしにはあり得ません。改めて、会員皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

さて、以前より検討を重ねてまいりました年度会費について、消費税や物価の値上げ等諸般の理由から、円滑な学会運営のために会費を値上げさせていただくことになりました。皆様には、事情をご理解いただき、同封いたしました「桜門体育学会会費納入のお願い」をご

確認の上、年度会費の納入をお願いします。なお、年度会費を2年以上滞納された場合には退会となりますので、ご注意ください。

ご不明な点は、事務局までお問い合わせください。また、**会員情報に変更等**がありましたら、事務局までお知らせください。

※大変申し訳ございませんが、振替手数料のご負担をお願いいたします。

桜門体育学会平成28年度大会（第7回大会）のご案内

研究委員会 近藤克之

リニューアルした桜門体育学会も、早くも本年度で第7回を迎える運びとなりました。

昨年度の第6回大会のシンポジウムは「これからの体育・スポーツ指導者に求められる資質」をテーマに岡達夫氏（公益財団法人 日本体育協会）を招き、資格認定者側からみた今後のスポーツ指導者の育成について講演していただきました。

また、ディベートフォーラムとして、文理学部体育学科の青山清英教授・鈴木理教授・大嶽真人教授・野口智博教授・城間修平助教・村上幸史助教・吉田明子助教が「体育教師に求められる実践的指導力の養成に向けた授業実践－創発分析能力に焦点化して－」をテーマとし、スポーツ運動学、体育科教育学の理論的背景を概観した後に、創発能力形成に向けた授業実践とその成果・課題が報告されました。このことを通じて、社会の養成に応じた保健体育科教員の専門性向上の必要性が共有されました。

また、一般発表も50題を数え、大会の充実度も年を追う毎に高まって来ました。会員の皆様には本学会のさらなる発展を期し、本年度大会への積極的なご参加をあらためてお願い致します。

第7回大会

期日：平成29年1月22日（日）

場所：日本大学文理学部3号館（3206教室）

内容：特別講演とシンポジウム、一般発表（ポスター発表）、総会、理事会、懇親会

備考

(1) 一般発表はポスター発表のみとし、2～3分程度のプレゼンテーションと質疑応答を予定しております。

(2) ポスター発表は公募制とし、学術的なものだけでなく、教育や指導にかかわる実践的な発表等も含め、多くの分野から募集します。共同研究の場合は発表者が学会員でなくとも、連名の中に最低1名の学会員が含まれていれば受け付けます。一般発表の発表者には桜門体育学研究への投稿を推奨します。掲載要領については「桜門体育学研究への投稿について」をご参照下さい。

(3) 参加登録、一般発表申込要領、大会行事等は同封の「桜門体育学会平成28年度大会のご案内」をご参照下さい。

1. 平成 28 年度プロジェクト研究の連絡と研究協力者のお願い

平成 28 年度も平成 27 年度と同様の要領でプロジェクト研究を推進する案が本年度第 1 回理事会で承認され、前年度と同じく磯貝浩久氏を研究代表者とし、「日本学術振興会科学研究費〈基盤研究 C スポーツ科学〉」に申請し、めでたく本申請が採択されましたので、ここに広く研究協力者を募集致します。積極的な参加をお待ちしております。参加を希望される会員の方々には、下記要領に従いまして申込みくださいますようお願い致します。

(1) 研究課題

「大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の影響—メタ分析及び大規模調査による解明—」

研究代表者：磯貝浩久先生

研究分担者：渋谷崇行先生、水落文夫先生、高橋正則先生、鈴木典先生、野口智博先生、水上博司先生、佐藤祐介先生、橋口泰一先生、近藤克之先生

(2) 研究の目的

従来の研究を概観すると、社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の影響に関する研究は蓄積されてきているものの、評価する社会的スキルの側面や評価方法などが研究毎に異なっていたり、特定のスポーツ活動だけを対象にしていたりするため、説得力を持つ一般化できる有用な知見は得られていないといえる。

本研究は、大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果に関して、①従来の研究成果に対してメタ分析 (meta-analysis) を行ない、どのようなスポーツ活動が、どのような社会的スキルの側面に、どの程度影響しているのかを検討する。②その結果を基に、大学生を対象に大規模な横断調査を行い、社会的スキル獲得にはどのような要因が影響するのか、その要因はスポーツ活動によって相違するのかを検討し、③縦断的研究により社会的スキルの獲得プロセスについて明らかにする。さらに、④スポーツ活動を通して社会的スキルを獲得した者を対象とした質的研究と、⑤研究で得られた知見を基にした介入研究を実施し、詳細を検討する。このような包括的研究は過去に例がなく、スポーツと社会的スキルに関して一般化できる有用な知見が示される。

(3) 研究の計画・方法

本研究の研究計画は、①これまで行われてきたスポーツ活動の社会的スキルへの影響に関する国内外のすべての研究をシステマティックに収集し、メタ分析によってスポーツ活動の影響の程度などを検討した後に、②5000人程度の大学生を対象とした大規模な横断的研究を行い、マルチレベル分析などを用いて関連要因及びスポーツ活動毎の影響の相違を示し、③500名程度の多様なスポーツ実施者を対象に1年間の縦断的研究を行い、社会的スキルの獲得過程及び促進要因の因果を検討し、④その結果を踏まえて、介入研究を行う。また社会的スキル獲得が顕著だった学生に対してインタビューを実施して質的に検討する。

(4) 研究の進捗状況

現在までに、メタ分析における文献収集作業とコーディング作業が行われており、システムティックレビューの完成を目指して進めております。また、それと同時進行で、横断的調査のアンケート用紙も作成しており、10月末までの完成を予定しています。アンケート用紙完成後、11月初旬から横断的調査の開始を予定しております。横断的調査では、5000人規模のデータが必要となります。できるだけ一人でも多くの研究協力者のご参加をお待ちしております。

(5) 研究参加の応募について

上記のプロジェクト研究の概要をご参照いただき、本研究への積極的な参加をお願い致します。希望される会員の方々は以下の要領で事務局にお申し込みください。

(1) 申込方法：

HPから、「平成28年度学会プロジェクト研究参加申込み用紙」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、omonjim@nu-taiiku.jpに送信してください。なお、e-mailの表題は「研究協力者参加申込み」としてください。

「桜門体育学研究」への投稿について

編集委員会 橋口泰一

1. 桜門体育学研究への投稿について

桜門体育学会では、総会にてご承認されました通り、これまで年間2冊を発行しておりました機関誌「桜門体育学研究」が年間1冊の発行となりました(9月30日発行)。それに伴いまして、掲載受理された研究論文につきましては、次号が発行されるまで学会ホームページにて早期公開を致します。「投稿規定」と「投稿の手引き」および書式例(いずれも学会ホームページ <http://www.nu-taiiku.jp/society>)に従って作成し、原稿を電子ファイル(Wordファイルなど)にして学会編集委員会(E-mail:omonhensyu@nu-taiiku.jp)にお送り下さい。

原稿の種類は、「総説」、「原著論文」、「実践報告」、「研究資料」です。本誌は実践的な研究成果の発表の場として、あるいは教育的・研究的価値の高い資料の発表の場としての機能も大切にしております。独創的で学術的な原著論文に限らず、そういった実践報告や研究資料の原稿も歓迎しますので、会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

平成28年度第1回理事会議事録

理事長 野口智博

平成28年度桜門体育学会理事会（第1回）議事録

日時：平成28年6月11日（土） 14:00～14:55

場所：日本大学文理学部総合体育館会議室

出席者：大橋（会長）、野口（理事長）、高橋（副理事長）、佐藤〔法〕（事務局長）、伊佐野、水上（企画・広報）、本道、服部、雪吹、高寄、吉田（編集）、野崎、小沢（庶務・会計）、平木、佐藤〔商〕、竹俣（研究）、城間、菅野（幹事）

委任状：山村、橋口、近藤、佐藤〔歯〕、鈴木
（敬称略・順不同）

配布資料：

- 平成27年度決算報告（案）
- 編集委員会審議資料（1～4）
- 事務局審議資料
- 平成28年度予算（案）

議事

報告事項：

1. 庶務・会計委員会より（佐藤常務理事兼事務局長）
 - 1) 平成27年度決算報告（案）について
 - ・平成27年度会計収支決算報告（案）の資料に沿って説明がなされた（大枠で、収入総額2,214,073円、支出総額1,653,629円、繰越金560,444円）。
2. 編集委員会より（本道理事）
 - 1) 「桜門体育学研究」第51集の編集状況
 - ・現在までに査読審査中の論文3編と、投稿予定の論文1編の計4編の論文掲載を予定しているとの報告があった。
 - 2) 論文投稿メールアドレスの掲載について
 - ・従来から論文の投稿は学会事務局を経由して編集委員会に依頼をしていたが、審査開始への遅延等の手続きの煩雑さが懸念されていたため、新たに編集委員会用のメールアドレスを開設し、論文投稿は直接編集委員会が対応する旨報告がなされた。
3. 研究委員会より（野口理事長・平木理事）
 - 1) プロジェクト研究について
 - ・平成28年度桜門体育学会プロジェクト研究「大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果—メタ分析及び大規模調査—」が、磯貝浩久氏（九州工業大学准教授）を研究代表者とし、本年度の科研費（基盤研究B）に採択された（3年総額3,600千円）。これを受け、高橋氏（副理事長）、水落氏（研究分担者）を中心に研究倫理委員会への申請を行い、当該研究の調査等を進めていくとの報告がされた。また、プロジェクト研究チームから理事会に向けて、研究協力に関する以下の依頼があった。
 - ① 当該研究において、5000人以上の被験者を対象とした大規模な調査を予定し

ているため、データ収集等を各理事の先生方に依頼したい。また、日本大学の学生だけを対象とする調査ではデータに偏りが生じてしまうことが懸念されるため、他大学の理事の先生や、当該研究に興味を持たれている先生への協力要請を併せて依頼する。

- ② 研究協力者を募集しており、研究協力者は共同研究者として研究報告（論文等）に掲載する。
- ③ プロジェクト研究の研究協力者の募集や研究の進捗状況、研究結果の報告等については、学会会報や学会HPを通じて行いたい。

・上記に関して、「これまで通りの周知方法だと、9月を目処にHP等に情報を掲載して研究協力者を募っていたが今回はどのようにするのか。」という質問があった。野口理事長から「まずは、理事会構成員で協力できることがあれば進めていきたい」との回答があった。それに関連して、高橋副理事長から当該調査に関する質問紙の準備が整い次第、各学部の先生方、若しくは他大学の先生方に送付し、調査紙の配布と回収を協力いただきたいとの調査の協力内容に関する説明があった。

4. 企画・広報委員会より（伊佐野常務理事）

1) 桜門体育学会HPのリニューアルについて

・体育学科のHPが5月末にリニューアルされ、それに伴い桜門体育学会のHPもリニューアルされたことが報告された。コンテンツについての変更はなく、HPへの情報掲載等の要望は、随時受け付けることが報告された。情報掲載等の要望の窓口は、伊佐野氏（企画・広報）あるいは、体育学科事務室の佐々木氏とすることが確認された。加えて、今回のHPは、文字情報と写真情報が同時に載るという特徴があることの説明があった。

審議事項：

1. 「桜門体育学研究」投稿規定等の改訂案について

・編集委員会より、編集委員会のメールアドレスを新規に開設したことに加え、従来の手続きに煩雑な部分があったため、投稿の手引き、投稿規定、その他HP等に掲載してある関連情報の全てにおいて変更が必要となった。それに伴い、以下の投稿規定及び投稿の手引き等の改訂が提案され承認された。

① 審査領域・研究分野の明確化

審査領域を明確にするため、体育学研究に則った審査領域とその番号等を設定し記載した。

② 電子ファイルによる投稿への変更

原稿の投稿は、電子ファイルを学会編集委員会のメールアドレスに送付するよう記載変更する。

③ 年間発刊回数・投稿先等の変更

HP上の「投稿のお願い」、「年間発刊回数が年一回に変更」、「原稿の送付先が編集委員会宛に変更」になったということを記載した。

2. 平成28年度大会（第7回）の概要について

・研究委員会より、第7回大会は平成29年1月22日（日）に日本大学文理学部の百周年記念館で開催されることが報告された。大会プログラムは、特別講演、シンポジウム、

一般発表（主にポスター発表）、総会、理事会、懇親会とすることが提案され、承認された。また、大会までの準備行程については、8月中旬に第一号通信への掲載と会報の発送、11月中旬に第二号通信と学会案内の発送、12月中旬に大会プログラムを発送することが提案され、承認された。

・学会大会の企画運営について、研究委員長の近藤氏から、企画・広報委員会に全面的な協力を要請し、特にシンポジウム等の企画等で連携を図っていききたい旨依頼があった。上記の説明に対して、以下の質疑応答がなされた。

質疑①大会委員長、実行委員長というのはどのような形でいつも決まるのか。実行委員長として、何か関わることがあれば、事前に早めに教えていただきたい。

応答①例年は、特に理事会等に諮ることはなく、研究委員会で人選し直接交渉して決めていた。研究委員会に一度持ち帰って検討し、第一号通信に載せるようにする。

質疑②昨年度学会大会の特別公演では、高校の教育に関わるものが中心であり、聴講の主な対象は学部学生であった。現在の大学体育は選択化が迫られている中で、他学部あるいは他大学での教養体育の実践例（うまく行われているケース、ちょっと良くないケース）など聴ける機会が学会大会の企画としてあるといい。

応答②今まで、講演とシンポジウムとの関連性を持たせて行われている。バラバラでも良いが、共通するものがあると、今年の学会大会テーマはこういうものになるという形になるので、その部分も考慮し、テーマと一緒に考えていきたい。企画委員会とも連携しながら、研究委員会で検討する。

また、企画・広報委員の伊佐野氏から、教養体育というテーマであれば、企画・広報委員会だけでなく、他の委員会の先生方にも協力を仰ぎながら、様々なネットワークを活かしていきたいとの意見が出された。

3. 役員（役割分担）について

・理事長より、前回の理事会の際に各委員長を選出し信任をいただいたが、幹事について推薦していた方から辞退の申し出があり、新たに城間氏（文理学部）と菅野氏（文理学部）の2名が選出された旨説明があった。そして、理事長の推薦により、金野氏、水島氏、鈴木氏、伊佐野氏、山村氏、吉田氏の6名の方を理事として推薦した旨説明があった。そのうち、山村氏と水島氏は本人の諾否を確認できていないため、今後変更になる可能性があることを含めて信任の提案がなされ、承認された。当該事項については、本人の承諾が得られた場合、あるいは山村氏と水島氏の人事に変更があった場合は、いずれにしても役員名簿の決定版を電子メールにて報告するとの説明がされた。

4. 平成28年度予算（案）

・会計委員会より、桜門体育学会平成28年度予算（案）の資料をもとに説明が行われ、前年度と比べて機関誌が今年度から1冊となったこともあり、収入の部の予算額は1,650,000円、支出の部の予算額が1,650,000円ということが提案された。

予算（案）の資料に関して、以下の質疑応答がなされた。

質疑①前年度繰越金500,000円であることに対し、27年度の決算に繰越金491,581円となっているが、どのようなことか。

応答①平成28年度の予算（案）前年度繰越金および27年度の決算の繰越金の正しい金額は、いずれも560,444円であり、再度計算しなおして予算（案）の修正を行う。

質疑②機関誌印刷代に関して、27年度の決算書では2冊の印刷で969,840円の支出とな

っており、28年度予算（案）の支出では1冊の印刷で700,000円を計上しているが、二冊だったものが一冊になった場合、半分くらいということが想定できると思うが、700,000円を計上されているのはどのようなところなのか。

応答②二冊であったものを一冊にまとめることで、一冊分のページ数が増えることを想定し、若干余裕を持たせたためである。

- ・これらの質疑応答を踏まえ、提案された平成28年度予算（案）が承認された。なお、修正した予算（案）は、役員名簿と同じく電子メールで報告することが確認された。

5. その他

- ・野口理事長より、本学会の財政事情は、あと三年もすれば現在の繰越金が底をついてしまう状況になっており、速やかに財政を整えるような状況を作らなければならない。これに関して速やかに解決策を講じる必要があるため、当該問題に関するワーキンググループを立ち上げ、何人かの先生にご協力をいただき、次回の理事会までに具体的な方策を提案してもらいたい旨報告があった。ワーキンググループのメンバーは、今後検討されることとなった。
- ・学会の財政に関する説明を受け、学会誌や学会大会プログラムへの広告掲載、HPのバナーなどのインターネット上での広告掲載費等の意見が挙げられ、学会誌と学会大会プログラムへの広告掲載については積極的に進めて、インターネット上での広告掲載に関しては様々な課題があるので引き続き審議していくことが提案され、今後は電子メール会議等などを利用して具体的な解決案を出してもらうということが確認された。